

令和 7 年度第 2 回 静岡市図書館協議会会議録

1 日 時 令和 7 年 10 月 24 日 (金) 午前 10 時～12 時

2 場 所 静岡市立中央図書館 2 階 ホール

3 出席者 (委員) 那珂会長、豊田副会長、青木委員、石上委員、海野委員、大橋委員、勝山委員、永田委員、西山委員、宮城島委員
(事務局) 山梨中央図書館長、伊藤中央図書館副館長兼管理係長、海野中央図書館サービス係長、高田御幸町図書館長、田島西奈図書館長、田中薫科図書館長、石川北部図書館長、佐藤南部図書館長、青島長田図書館長、鎌田清水中央図書館長、杉山清水興津図書館長、杉山蒲原図書館長、宮本中央図書館麻機分館主任主事、山田中央図書館美和分館主査、坂下中央図書館サービス係主査(再)、大橋同会計年度任用職員

4 傍聴者 2人

5 議 題 (1) 図書館事業の概要について
(2) 図書館への意見・提案

6 会議内容

(1) 令和 6 年度事業報告

那珂会長 議事にそって進めさせていただきたいと思います。まず、図書館事業の概要について、図書館より説明をいただいた後、委員の皆様からご意見、ご質問があれば伺いたと思います。それでは、図書館の方から、ご説明をお願いいたします。

事務局(サービス係長) 図書館事業の概要について説明をいたします。まず全館共通の事業について説明をしてから、各館の説明に関しては中央図書館と拠点館の各館長から説明します。

資料 1 をご覧ください。市立図書館は中央図書館と 3 つの拠点館、6 つの地域館、2 つの分館の計 12 館と移動図書館車 1 台で業務を行っています。葵区は中央図書館の他、御幸町図書館が拠点館で、地域館は薫科図書館、北部図書館、西奈図書館がございます。また、中央図書館の分館として麻機分館や美和分館がございます。駿河区は拠点館が南部図書館、地域図書館は長田図書館です。清水区は拠点館が清水中央図書館、地域館は清水興津図書館と蒲原図書館です。

中央図書館と拠点館は、参考図書や専門的な図書を重点的に収集し、地域館をバックアップする役割があります。一方、地域館および分館は、利用の多い一般的な資料を重点的に収集する他、各地域の資料を積極的に収集する役割があります。ただしこの役割は、中央と拠点館にもあります。

2ページをご覧ください。図書館行政のあらましとして「静岡市立図書館の使命、目的とサービス方針」を載せてあります。こちらでは3つの使命を掲げています。1.「図書館の自由に関する宣言」に基づき、知る自由を守る図書館、2.市民の暮らしや仕事、まちづくりに役立つ図書館、3.学びを通してさまざまな個性が育つことを助ける図書館です。この3つの使命に対して、6つの目的、10のサービス方針を掲げ、静岡市立図書館は静岡市民一人ひとりの豊かな生活を実現するための役割を担うということを誓っています。これらを実現するために、職員の専門的能力を高め、市民本位のサービスに努めています。また図書館運営に関する情報を積極的に発信して、市民と行政が協力し合うことで成長する開かれた図書館を目指しています。

次に6ページをご覧ください。こちらは図書館の沿革の記録になります。下段に最近の出来事がございます。令和3年8月に中央図書館が大規模改修を経てリニューアルオープンをしました。また、令和6年3月には、図書館の電算システム、ウェブサイトを更新して、電子図書館オープンとICTを利用したサービスを開始しました。これにつきましては、後ほど簡単にご説明します。令和6年4月には、藁科図書館が大規模改修を経てリニューアルオープンをしました。また御幸町図書館は開館20周年記念として、令和5年度から6年度にかけてさまざまなイベントを開催しました。

次に図書館事業についてご説明します。資料2-1の中央図書館をご覧ください。左側下段の主な事業でご説明します。図書館の共通の事業についてです。

1つ目は図書館資料の貸出で、図書や雑誌、CD等視聴覚資料の他、インターネット上で電子図書の貸出も行っています。貸出は個人の他、学校や社会教育団体への読み物の貸出や小中高等学校への調べもの学習用の図書の貸出も行っています。また予約サービスも行っており、静岡市で所蔵していない図書を他の市や県の図書館から借り受けるサービスもあります。

2つ目はレファレンスサービスです。これはいわゆる調べものになりまして、利用者の調べものの支援や各種情報の提供を行っています。小学校での調べもの学習等質問の多い事項やテーマにつきましては、あらかじめ参考ツールの作成も行っています。

3つ目は資料の収集・保存・展示です。全館共通の収集方針に基づき、資料を収集し、適切に保存し、貴重書については展示を行っています。中央図書館では、本年9月に「木村文庫特別展示、江戸時代の人を読んだ本」と題し、薦屋重三郎ゆかりの作家十返舎一九の貴重なコレクション「木村文庫」の展示を行いました。

その他の主な事業としましては、読書活動推進のための講座やイベントの実施、福祉サービス、図書館協議会の運営、子ども読書活動推進計画の実施等を行っています。

次に図書館の統計についてご説明をします。年報30ページに統計資料を載せてあります。(1)は、令和6年度の各館別の実績です。下の表の右側が合計となります。蔵書冊数は全館で約223万冊、登録者数は約13万人です。

次に32ページをご覧ください。「(4)全館利用状況の推移」に、全館の5年間の推移を載せてあります。令和6年度をご覧くださいと、入館者数は前年度より増加しておりますが、一方で貸出者数と貸出点数においては減少が見られました。入館者数が増加した主な要因は、令和5年度に大規模改修により休館していた藁科図書館が令和6年の4月下旬にリニューアルオープンしたことと、御幸町図書館が20周年記念事業として新規イベントや講座を多数開催したことが挙げられます。

次に貸出者数と個人貸出点数の減少の主な要因は、影響数の算出ができないのですが、システムがちょうど切り替わった関係で、これまでカウントしていた貸出し延長分を、システム変更後はカウントしなくなったことが大きな要因と考えております。

しかしながら、コロナ禍以降のデジタル化の加速や生活様式の変化により、図書館の利用傾向に変化が生じていることは実感しておりますので、今後も従来の取り組みのブラッシュアップとともに、新たな取り組みにより、入館者増を図り、貸出に繋げていくよう取り組んでいるところです。皆様には今後2年間ご活動いただきますが、入館者増に繋がる取り組みにつきましてご意見をいただけると幸いです。

次に41ページの図書館サービス指標をご覧ください。サービス指標は住民に提供された図書館のサービスの量を示す指標で、市の人口に対する登録者の割合である登録率や人口一人当たりの年間貸出点数、登録者一人当たりの貸出点数など6項目を設定しています。令和6年度の登録率と一人当たりの蔵書数は前年度比で増加していますが、人口一人当たりの貸出数、貸出点数に関する項目は減少しています。これにつきましては、先ほどお話しましたように、貸出点数、貸出者数と貸出件数に係る減少が要因になっておりますので、今後も増加に繋がるよう取り組んでいきます。

最後に、令和6年3月から電子図書館の導入とICTを利用したサービスを開始しております。サービス内容は、電子申請による利用登録を可能としたことと、図書館カードの代わりに、ご自身のスマートフォンで利用者情報のバーコードを提示していただくことで図書館の資料を借りることができるようにしたこと、そして電子図書館の導入があります。

電子図書館について説明をいたします。「静岡市電子図書館利用案内」をご覧ください。図書館のホームページ中に電子図書館の欄を設定しています。ここにアクセスいただきますと、電子書籍を利用者のパソコンやスマートフォンで貸出し閲覧ができるサービスです。紙資料とは別に、貸出し3点、予約3点まで利用が可能です。読み上げ機能や文字

サイズの拡大機能付きの電子書籍もあり、利用者の居住地域や障害の有無に関わらず、図書館にお越しいただかなくても図書館サービスを受けられる読書環境の整備をいたしました。また、令和6年9月から静岡市立の小・中学校の児童生徒に一人ずつ配布されているタブレットから電子書籍の一部の閲覧ができるようにいたしました。

現在の状況について年報の30ページをご覧ください。下の表の真ん中右辺りに電子図書館という欄があります。これが電子図書館の実績になります。これは令和6年度の数字ですが、電子図書館が令和6年の3月からなので、ちょうど今、1年半経ったところで、前年度比較はまだできない状況です。

令和7年度につきましては、上半期で貸出点数は約1万2千点になりまして、令和6年度の上半期と比べますと約1千点、8.5%の増加となりました。

また、先ほど申しました学校連携の利用が主になりますが、貸出とは別に閲覧というサービスがあります。令和7年度の上半期の閲覧点数は25万1千点で、前年度比で約18万2千点、約364%の増加となっています。増加率が大きいのは、学校連携が令和6年9月から始まったためです。

今後の取り組みとしましては、電子図書数が令和7年9月末現在3431点と非常に少ない中で、利用者満足度を上げていくために、利用者アンケートや利用状況により、利用人数や利用している年齢層を把握して、電子資料の充実に繋げていくよう、頑張っております。

なお利用対象者、利用方法等をご覧いただいた案内にございますので、未利用の委員がいらっしゃいましたら、一度ご利用いただきまして、ご意見等いただけると幸いです。

以上で、全館共通事業の概要説明を終わります。続きまして各館の活動概要を説明いたします。

中央図書館につきましては、資料2-1をご覧ください。中央図書館は昭和59年7月に、静岡市立中央図書館として開館いたしました。それ以前は、昭和44年12月から追手町に静岡市立図書館として設置していました。

中央図書館は、図書館全体の管理運営を担う基幹図書館で、地域資料、貴重書をはじめ、多様な資料を幅広く収集提供しています。

令和2年から3年にかけて行った大規模改修を経て、児童コーナーにおいて、赤ちゃんや小さな子どもが賑やかになっても気兼ねなく過ごせる「コアラタイム」の導入、また一部スペースで蓋付きの飲み物の持ち込みを可能とするサービスを開始しております。この他の改修につきましては、会議終了後に館内案内をご希望の方にさせていただければと思っておりますので、実際にご覧いただければと思います。

次に、左側下段の主な事業につきましては全館共通事業の他、中央独自の取り組みとしまして、電子図書館の運営、移動図書館の運行、図書館協議会の運営および子ども読

書活動推進計画の実施等がございます。

右側の令和6年度と7年度の活動概要につきましては、記載のとおりです。新たなものとして、大規模改修を機に、玄関に設置しました展示コーナーに重点を置いており、先ほどお話した木村文庫等の貴重書の展示や、令和7年度に記載の「もっと!しずとしょ!!～図書館のヒミツ大公開～」では、中央図書館のジオラマを展示して、図書館業務の周知を行いました。

また、毎年実施している「しずとしょフェスタ」は図書館活動の周知と利用促進を図るため、ボランティア団体の皆様と連携し、講演会やおはなし会、図書館体験等のイベントを行っております。明後日26日に「しずとしょフェスタ」を行います。今年度は、「どこ?ここ?図書館でさがしもの」ベストセラー絵本「どこ」のシリーズの作者で、静岡市出身の山形明美さんの講演を実施いたします。この絵本「どこ」は、造形作家である山形さんが作成したジオラマ作品の中から、探し物をするという設計になっており、講演会では絵本「どこ」がどのように作られているかを、出版社の担当の方と対談形式でお話をいただきます。講演会はあと少し席がございますので、ぜひこれを機にお申し込みいただければ幸いです。また現在、山形さんの作品を1階の玄関コーナーで展示していますので、こちらもぜひお楽しみください。

以上で中央図書館の説明を終わります。この後は拠点館である御幸町図書館、南部図書館、清水中央図書館の館長から各館の説明をさせていただきます。

事務局（御幸町図書館長） 御幸町図書館です。資料2-3をお願いします。左上の写真のとおり、御幸町図書館はペガサートビルの中にありますが、昨年度開館20周年を迎えましたので、記念ののぼり旗を作り、1年を通して図書館各階の入口に設置しアピールをしました。館の特徴といたしましては、今から21年前の2004年9月に静岡市御幸町伝馬町第一地区市街地再開発事業の一環として、静岡市役所低層棟3階にございました追手町図書館をペガサートビルの4階と5階に移転、開館いたしました。従来の図書館のサービスに加えて、「ビジネス支援」「多言語支援」「医と健康」の3点を重点的に提供している市立図書館で唯一、平日は20時まで開館している中心市街地に設置している図書館でございます。

昨年開館20周年を契機に次の段階にステップアップするために新規事業や近隣施設との連携事業の拡充に努めております。ペガサートビル6階、7階の静岡市産学交流センターや静岡市コ・クリエーションスペース、同ビル3階の障害者就業支援事業所のLITARICO ワークス、お堀近くの静岡市歴史博物館等とのコラボイベントに積極的に取り組んで、質の高い図書館サービスを目指しているところでございます。

ビジネス支援の具体的なものとしては、起業コーナー等のビジネス展示コーナー作

り、産学交流センターが毎月発行しているメールマガジンへのビジネス紹介本や年4回発行しているサポート季刊誌へのビジネス紹介本の定期的な発信、その他ビジネス講座の開催等、多面的に展開しております。

2番目の多言語支援につきましては、8,900冊ほど多言語資料を所蔵しており、約24か国語ございます。外国人ボランティアさんが母国語で行う絵本の読み聞かせイベント「ピクチャーブックリーディング」を年3回ほど開催しております。これは開館当初から継続実施して今まで2,500人以上の方に参加していただいております。外国人ボランティアさんにはイベント参加だけでなく、外国語資料の選書のアドバイスもいただいております。また、図書館の利用案内や登録申請書の多言語翻訳を市の国際交流課や国際交流協会と連携させていただいて、現在10か国語を提供しています。

医と健康支援では、図書資料の収集提供、特集コーナーの展示、医療情報のパスファインダーの更新・作成、闘病リストの作成、医と健康講座の開催等を行っています。

右側は昨年度の活動概要になりますが、★印が昨年度初めて行ったものでございます。YAガチャ本につきましては何の本かわからないように包んで実施しましたが、ケーブルテレビからの取材も受けさせていただき、人気のイベントでございます。また、常葉大学と常葉大学短期大学部音楽科の大学生及び民間のマンドリンクラブのご協力を得て初めて開催したミニコンサート、外国人大学生の方に自分の思い入れのある外国本の読み語りをセットにした多言語フェスを行い交流の場を広げました。

静岡市歴史博物館とのコラボレーションにつきましては「夏休みクイズラリー」、こちらは両館に実際に行かないと解けない工夫をして出題したクイズを解答していただくという、両館に足を運んでいただくために初めて開催いたしました。また、御幸町図書館司書が歴史博物館に行って絵本の読み聞かせも初開催でございます。静岡市博物館の学芸員による「おまちの歴史を知る講座」を御幸町図書館で開催したり、歴史博物館の企画展に関連する図書資料の特別展示コーナーを新設したり、通年行うようにいたしました。また、両館所蔵資料を利用したレファレンス体制協力もさせていただいているところです。

今年度令和7年度の事業計画につきましても、★印は初開催でございます。「ぷらっと図書館」では「絶対笑っちゃうおはなし会」、4階ですが、BGMを1日中流すというチャレンジを行いました。その他子ども司書体験、大人司書体験、隣のセノバにあります書店さんとのコラボも今進めているところでございます。

年明けには静岡市美術館にて絵本作家のかぐいひろさんの企画展が開催されるため、コラボイベントを提案させていただき、共催していただけるということで、学芸員によるスライドトークや司書による読み聞かせを行う予定でございます。

医と健康とビジネス講座とありますが、館の特色のものを組み合わせたもので、医と健康とビジネスを絡めたテーマで講師の方をお願いしているところでございます。御幸町図

書館からは以上です。

事務局（南部図書館長） 南部図書館です。資料2-7をご覧ください。南部図書館は駿河区の拠点館として登呂遺跡の復元家屋をモチーフにした特徴的な外観の施設となっております。平成4年7月に開館し今年で33年を迎えました。

棚の特徴としては史跡・登呂遺跡や国宝・芹沢銈介に関する棚がある他、2階には地域福祉行政センター「みなくる」がありまして、福祉・高齢者サービス、読書バリアフリーの推進に力を入れて、資料収集、サービスを行っています。

おはなし会、映画会なども定期的に行っています。資料左下に写真を載せてありますが、令和4年12月に設置した「りんごの棚」には、点字絵本やLLブックなど子ども向けのバリアフリーの本を揃えています。「認知症にやさしい図書館のオレンジの棚」には認知症の病気、予防法、介護保険に関する図書や地域包括支援センターの案内などがあり、職員全員が認知症サポーター養成講座の研修を受け、応対しています。

お手元に青いチラシをお配りさせていただきました。令和7年度の事業計画にありますが、来月8日に開催される地域包括ケア推進課の「認知症サポーター養成講座」で、スペシャルコラボということで、ブックトークなどを予定しております。

右の欄にいきまして、南部図書館では開館当初から2つの大きな事業を継続しています。1つは静岡子どもの本を読む会（以前は静岡おはなしの会も）の協力をいただいている「こどもの本を楽しむ講座」です。平成5年から継続開催しておりまして、絵本、物語等の紹介と職員によるブックトークを行っています。以前は6回でしたが、今は5回でやっています。

そしてもう1つは「南部図書館寄席」で、こちらは平成16年から開催しており、今年20回目を迎えました。おかげさまで127人の参加者をいただいております。高齢者サービスの一環として、南部図書館から笑いをということで続けております。

令和6年度の活動概要に関しては、ご覧のとおりですが、昨年度から市と連携いたしまして、認知症イベントを行っています。そのほか子育て応援すくすくコーナー、出張YAコーナーなど、施設の中をリニューアルしながら、より利用しやすい図書館へとサービスを進めております。

令和7年度の事業計画の中で、主なものを紹介いたします。「ぷらっと図書館 in 南部図書館」では、南部ひびきの会のご協力により、「電子図書館を使ってみんな de 音読タイム」「新聞紙で防災スリッパをつくろう」等イベントを開催しました。

また、駿河区で毎年行っております「駿河トロベアWeek」に今年も参加しまして、さきほど紹介した「南部図書館寄席」と「展示」、そして映画を上映しました。映画につきましては、「小澤先生と楽しむ南部木曜シネマ」と題し、9月、10月の上映作品4本を映画解

説者の小澤正人氏にセレクトしていただきまして、第1回目のみ解説付きで上映をし、最後の1本を「トロバーWeek」期間に上映しました。それから展示は9月9日～10月21日、「駿河区20年・昭和100年」と題しまして昭和のベストセラー図書を展示するなど開催をいたしました。この2つの映画と展示に関しては内閣官房「昭和100年」の関連施策推進室 instagram にも紹介をいただいております。

そのほか、「南部図書館福祉サービスガイド」や「いきいき読書ノート」の発行、「いきいきシニアコーナー」の新設、図書館ボランティア体験を通した引きこもり自立支援事業への協力など南部図書館では、福祉サービスに力を入れてバリアフリーの推進に万進しております。

この夏は空調設備等の不具合がありまして、皆様にご迷惑をおかけいたしました。屋上防水外壁修繕や、空調の修繕などを行う予定がありまして、皆様に安心して利用いただける図書館になるよう日々努めてまいります。南部図書館からは以上です。

事務局（清水中央図書館長） 清水中央図書館です。資料2-9をご覧ください。清水中央図書館は平成4年12月に旧清水市の中央図書館として開館いたしました。平成15年に旧静岡市と合併した後は、清水区の拠点館としての機能を担うとともに、地域に根差した図書館を目指し、清水関連のコーナーや展示、資料の充実に努めてまいりました。

地域に愛着を持っていただくための様々な取り組みの中で、「さくらももこコーナー」は、清水出身のさくらももこさんの全著作を、貸出用、閲覧用、保管用と3冊ずつ取り揃え、図書館に来れば、いつでもさくらももこ氏の著作を手にとることができるコーナーとなっております。また地元のプロサッカーチーム「エスパルス」の応援コーナーを設置し、サッカー関連の書籍とともに、試合の結果や順位を掲示して、地域の皆さんと一緒にサッカーのまち清水を盛り上げていく取り組みを行っております。

展示につきましては、西山委員が会長を務めておられる清水郷土史研究会の協力を得まして、郷土の歴史に関する展示を年間を通して行っております。

資料といたしましては、「徳川文庫」という貴重資料を所蔵しております。こちらは徳川慶喜、慶久、慶光の三代にわたって収集所蔵されてきた書籍類で、6600点余りを所蔵しております。徳川慶喜あるいは幕末に関する貴重な資料となっております、全国から資料に関する利用希望や照会が寄せられております。

令和6年度の活動概要といたしましては、主な事業として、「パパ's 絵本プロジェクト」という子育てを終えたお父さんたちのグループによる読み聞かせイベントを実施いたしました。これは楽器を演奏しながら、音楽に合わせて歌うように絵本を読むユニークな読み聞かせで、参加者も一緒に歌ったり踊ったりして楽しめ、好評を得ております。また、男性

だけで行う読み聞かせ会は珍しく、お父さん達男性が絵本を読むときの参考になるとの声もいただいております。

次に秋の親子読み聞かせ会は、清水中央図書館の向かいにある清水桜が丘高校との共同事業です。高校で保育基礎を学ぶ生徒さんたちが、授業の一環として、乳幼児を対象とした読み聞かせを行います。最初に、図書館の職員が学校に行き、本の選び方から読み方、そして読み聞かせ会のプログラムの作り方等を指導します。指導を受けた生徒さんたちは、実際に図書館で読み聞かせ会を開催します。

いくつかのグループに分かれて各グループ2回ずつ読み聞かせを体験していただきます。そうすると、生徒さんたちの読み聞かせが、1回目と比べて2回目は格段にうまくなります。生徒さんたちが真面目に取り組んでいることもありますが、教室で教わるだけでなく、実際に乳幼児を相手に読み聞かせをした体験が上達につながっているのだと思います。

また、施設面におきましては、利用しやすい図書館にするための取り組みといたしまして、ベビーシートの増設を行いました。元々児童コーナーにはベビーシートが設置してありましたが、おむつ替えをしているところが開架フロアから見えてしまうので使いづらいという利用者からの声がありましたことから、多目的トイレの中にベビーシートを増設いたしました。これによって、お父さんもお母さんも人目を気にすることなくおむつ替えができるようになりました。このベビーシートに限らず、利用者の声を聞きながら、少しずつ施設の改善を進めております。

その他の実施事業につきましては、年報の 55 ページをご覧ください。

令和7年度の事業実施状況についてですが、7月20日に「ぷらっと図書館」を実施いたしました。当日は、記載のとおり3つのイベントを行い、146人の参加者がありました。

8月には「やさしい郷土の歴史講座」を実施しました。「お茶の文化論」というタイトルで、静岡とお茶の歴史的、文化的関わりについて学ぶ講座を、清水郷土史研究会との共催で行い、60名の参加者がありました。

その他、今後実施予定の事業につきましては、年報の 62 ページをご覧ください。

説明は以上になります。

(2) 図書館への意見・提案

那珂会長 ありがとうございます。本来であれば、議題ごとに皆様方から意見を頂戴するところですが、本日はかなり内容がたくさんありまして、時間も押しているという関係がございまして、今図書館の方から全体の説明と4つの図書館の本年度の事業内容、次年度の事業計画を簡単にご紹介していただきましたが、議題の2番目、図書館への意見、提案というところで、今のご説明いただいた内容についてのご意見も含めて、ご発言、ご

意見のある方はいただきたいと思います。ですので、議題の2番目に移らせていただきます。

今回は初めての図書館協議会ということになりますので、普段、図書館を利用している上での様々なご意見、ご提案などがございましたら、皆様から意見を頂戴したいと思います。また、今の図書館側からの概要の説明に対する意見あるいは質問がございましたらどうぞよろしくお願いいたします。ここからはフリーで質問のある方は挙手をしていただきまして、ご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

では私の方から、質問をさせていただきたいと思います。今、中央図書館をはじめ各図書館の様々なイベントを企画してやっていたというご報告がございました。本当に良い取り組みばかりで、また新しい取り組みもたくさん検討されていて、こうやっていろんなことを図書館の中でやっていただくと、利用者にとっても新しい刺激があって、あるいは新しい出会い、対話の場みたいなものが図書館の中で作られていくので、すごくいいなと思っています。その関係で全体を通して、私の方で2点ほど質問がございます。1点目は、毎年新しいイベントを企画されているということはすごくいいんですが、一方で、同じ企画を継続してやっていくものがどの程度あるのか、継続性というところですね。そこは何か計画の中でお考えになっているのかというところが1つあります。

例えば御幸町図書館の令和6年度のイベントの概要ですと、歴史博物館とのコラボというところですけども、また令和7年度も歴史博物館のコラボを継続されているというところですが、継続をしない、1回だけのイベントもあったりします。そこを継続しないで、次年度はそれはやらないという判断というのは、何かその理由があつてのことなのかということが、1つお聞きしたいところです。

2点目をお聞きしたいのは、年報の2ページ「静岡市立図書館の使命、目的とサービスの方針」の3つ目に「学びを通して様々な個性が育つことを助ける図書館」とありますが、冒頭豊田副会長のお話がありましたけれども、この学びが本当に学びの支援に繋がっているかどうか、成長に繋がっているかどうかというところをどのように確認されているのかをお聞きしたいと思います。

大学で勤めていますと、学びがどのように引き出されているのかを昔はあまり気にはしていませんでした。でも今は非常にシビアになってきていまして、数値で何でもかんでも統計を取らないといけないというところで、学習成果の可視化みたいなことが言われています。今後大学は、就職率や学外での活動をしているボランティア率等、大学の中の一人ひとりの学生に関わる様々なデータを全部集めて、入学から卒業まで、場合によっては卒業後、社会に出て2、3年後のデータまで取っていかないと、私の大学は常葉大学ですけども、大学としてどのような学びの成長を提供できているのかということ、今の

高校生や中学生に説明ができないというところで、学習成果の可視化ということが非常に注目されているところです。

核になるのは、大学ですと、やっぱり授業アンケートですね。それぞれの先生方の授業が終わった後の履修生に対するアンケート、ここが多分元になると思うんですけども、図書館のイベントについても、イベントが終わった後のアンケートをとっていると思います。そのアンケートのデータをどのように活用しているのか、実際にされているのか、データとして分析されているのか、この辺を知りたいと思っています。この2点についてどなたかお答えいただければと思います。

事務局（中央図書館長） 私からお答えします。まず、継続性と新規事業ということですが、例えば御幸町図書館で昨年度、歴史博物館とのコラボなど新しい事業を開催しています。今年度は、新しく書店とコラボする予定もあります。先ほど先生もおっしゃっていましたが、アンケートをそれぞれとっておりまして、もちろん、皆さん好意的に答えてくれることが多いですが、それでも中身はもうちょっとこうした方がいいという意見もありますので、意見を分析して継続していくものと、ちょっとここで一旦お休みして、次に繋げていこうというものも毎回考えています。

例えば今年初めて全12館で「ぷらっと図書館」を開催しましたが、とても好評でした。ただ、中には図書館は静かであるべきだとおっしゃる方もいらっしゃいます。そういう声も活かして、来年度は、例えばこのスペースは静かに過ごせますという場所を設けることも考えています。全ての事業について、アンケートを活かしながら、継続するものと変えていくものを選んでいきたいと思っています。

次に学びのことですけれども、こちらアンケートをとっております。昨年、電子図書館を始めまして、昨年9月から学校の連携を始めまして、小中学校の全ての児童生徒にIDを渡し、電子図書館を閲覧できるようにしました。これに関しまして、学校司書の皆さんからご意見をいただくなどして、さらによりよいものにしていこうと思っています。ただ、学校の子どもたちも、どういうことに興味があるのかというのが日々変わっていくと思いますので、そういった子どもたちの学びへの意欲というか、例えば地元の歴史が知りたいよとか言う方もいますし、今どんなことが世界に起こっているのか知りたいなとか考えていると思いますので、そういうのはやはり、私たち自身も意見を聞きながら学んで、どんどん新しいことに活かしていきたいと思っています。

那珂会長 せっかくアンケートをしていただいているので、そのアンケートを見て図書館サービスをどうしていくのかというところは、そのアンケートの結果を使っただけであればいいと思いますが、さらにその先をおって、イベントに参加してくれている市民の方がどのよう

に成長を実感しているのか、これはなかなか定量的にはいかなところがあるかもしれないけれども、逆に言うと、そういった実感を得ましたかみたいな質問項目を立てることで、ある程度その数値化はできていくのかなと思っていますので、学びの支援で学校で電子図書館の貸出というお話もありましたが、もちろん学校では当然児童生徒の成長を見るわけですが、図書館も学校と一緒にって共同で成長を引き出していくというような、より突っ込んだ取り組みが連携の中で自然にできていけばいいのかなあと思いますので、そういうことでお聞きをしました。

他にはいかがでしょうか。ご自由に発言していただければと思います。

大橋委員 市民委員の大橋です。よろしくお願いします。

最初に、会長からお話があったように、市民の生活がどれだけ豊かになることを支援しているかという問いに答えていけるように、私も意見を言いたいと思います。必要な人に必要な情報が届くようにという図書館の大切なお仕事だと思うんですけど、必要だと自覚していない人もいますので、図書館に来ることが私にとっては本当に必要だったんだという気づきを促すような水面下のこともしていただけたらいいかなと思います。来る人はそもそも本が好きな人なので、どんどん利用すると思うのですが、気づいていない潜在的な利用者を開拓していただけたらと思うことで、いくつかご意見を言わせていただきます。

1つ目はやはり参加型のプログラムです。自分たちが参加しているよという主体的な意識があることによって、自分の町の図書館を大事にしようという思いが深くなるのではないかなと思います。

NHKの「クローズアップ現代」で図書館の番組がありましたが、成功している図書館は、本や情報の動きではなく、自分たちの図書館を自分たちで動かしたいという取り組み、つまり人がどれだけ動くかということに取り組んでいると思いました。

だからお話しちゃうとか音楽も流しておこうとか、だんだん革新的な取り組みがあるんですけど、自分たちがサポーターになってどれだけ図書館を応援できるかなというプログラムを提案します。今魅力的なプログラムを図書館の方が提示してくれて、それを体験して充実していると思います。どこまで市民に任せるかということがあると思いますが、自分たちが参加して人と人との交流が生まれてここに来て良かったな、じゃあまた図書館へ来ようという思いになることも大事なかなと思っています。

十返舎一九の展示を私も見ましたが、見て帰っちゃうだけなんですよ。すごくいいものですけど、だからそこにリアクションができて、テレビ番組じゃないですけど、シールを貼っていく。良かった、こういう歴史的なものって見たいとか、もっと違うジャンルを見たいという差障りのない答えて興味関心が引き立てられる。企画自体の肯定や否定ではな

いです。シールで貼っていくと、市民はこれだけ関心を持っているんだということがその場で利用者にも可視化できると思います。すぐリアクションがわかるのが今の時代なので、そういうことがあっても面白いのかなと。データとしての価値はないかもしれないですけど、そこに利用者の喜びがあればいいのかなというふうに1つ思いました。

あと歴史博物館との各施設との連携もすごく良くて、本に関心がない人でも、仏像の今度の博物館の企画を見たら、じゃあ今度図書館にある本を手に取りに行こうかなというふうに思ってもらえればいいので、それは続けてほしいということです。

またアナウンスの仕方はどうなのかなということです。本に関心がある人は図書館だよりを積極的に持っていったり、ネットで探したりしますが、それができない人に対して、図書館のホームページにこない人に対して、どうアナウンスしていくのかということが、これからの課題かなと思います。他の施設に行けば図書館だよりって置いてありますが、何かそこでまたアイデアが出てきたらいいなと思うので、私なりに考えていきたいと思っています。

最後にデジタル図書館についてです。私は3月で公立小学校を退職しまして、そのとき自分が導入に当たったものですから、一部の学校の現場のお話でしかお伝えできませんけれども、こどもたちはハイブリッドに使えます。ちょっと時間がある時は、学校図書館に行こう。でも今、そこまでの時間はないよという時はデジタル図書館で読めるよと、ハイブリッドに上手に使っています。貸出冊数が落ちることはありませんでした。

今の貸出冊数の数字を維持しながら、デジタル図書館にもスルッと行ける、帰って来られるということで、こどもたちは上手にハイブリッドで使っていたんですね。「どこがいの」と聞いてみたら、一部の意見としては、ピンチインピンチアウトができるから、大きな字でわかりやすく読める、この字が何かなって確認できること、カラーの写真、図鑑系とか挿絵をよく見たいときは古くなった印刷よりも、リアルな石の写真が美しく見えることなどで魅力を感じています。でもこれからだと思うんですね。導入はうまくいったと思うんですけど、そこを呼び込む次の手立てを打っていくことによって、確実にログイン回数は定着していくというのは、これがうまく軌道に乗るといいなというふうに思っています。

那珂会長 はい、ありがとうございます。貴重なご意見いただきまして、1つ1つ本当にそうだなと思いました。他の委員の方、よろしくお願いします。

豊田副会長 今お話くださった参加型プログラムの話は、特にそのとおりだと思いました。会長も学びの話をされていますけれども、今求められている学びの形というのは、やはり対話とか参加とかそういったことが非常にキーワードになっていると思うんですね。ですからそれと読書をどういうふうにもう結びつけていくか、そういうことは非常に重要になってくるのかなと思っています。

そういう意味では「ぶらっと図書館」を今年あちらこちら図書館でやられて、いろいろな反響があったと伺っていますけれども、図書館はこれから対話と交流の場になっていくというのはやっぱり大きい流れとしてありますので、そこへ向けて市民の考え方もだんだんそちらの方に誘導していくというのはよくないですけど、そういういき方もあるんだよということを知ってもらい、またその中でいろいろなチャレンジをしていく場として非常に重要なので、これはうまく発展させていっていただきたいということを強く思っています。

私は今いろいろな新しい図書館を作ることに関わる仕事をしていますが、その中で、これからの日本というと大袈裟ですけども、地方都市の公共図書館に直面している課題は大きく3つぐらいあるのではないかと思います。

1つは今言った対話と交流の場に図書館をどういうふうにしていくのか。それが新しいコミュニティ作りに繋がっていくだろうということですね。逆に言うと今、孤独とか、格差とかそういうことが非常に大きい問題になっているので、そこへの解決にも図書館は実は役に立つポジションにいるのではなかろうかということですね。それを対話と参加と学びによって実現をしていく役割が実は図書館ではかなり担うことができるんじゃないかと。

それからもう1つ非常に重要だと思っているのが、今年人手不足元年と言われているんですね。団塊の世代が75歳以上になっていって、これから急激に少子高齢化がさらに進んでいこう。職員が正規であれ会計年度であれ、非常に人材確保困難だというような状況は、別に図書館に限らないですけども、全国的にある。そうすると、安いお金で集めてやってもらうんだ、ちょっとだけ高くすれば他よりも人が来てくれるだろうという考え方は全く通用しなくなる。そういう人手不足の社会で、図書館を運営していくにはどうしていったらいいだろうということを考えていかなければいけない。いろんな人の協力を得てということもすごく大事だし、参加型というのはある意味で、参加する市民の皆さんに運営に協力してもらおうということでもありますので、そういったことを考えていかなければいけない。

それから3つ目は、生成AIが今非常に利用されるようになってきていますけど、生成AIやDXを図書館でもどういうふうの実装していくかということが非常に大きい課題になっているということです。

この3つはお互いにすごく関係し合っていることなので、多分全体として見ていかなければいけない話だろうと思っています。

例えば生成AIについて言えば、高齢者と生成AIは全然結びつかないかもしれないですけども、私も今「ぶらっと図書館」はどういうのだったかを思い出すために、ここで生成AI使っているわけですが、スマートフォンなんかも実はお年寄りが使えるようになると、ある意味若者以上にとても利用価値が高いというふうに言われますけれども、生成AIなんかも本当にそうなので、前回、電子図書館を知ってもらおうということをコンテンツにしな

がら、デジタルに馴染んでもらうという講座を企画、実施して、非常に良い評価を得たというお話をお伺いしましたが、そういうような何か戦略的なものというのが、非常に重要になってくるんじゃないかなと思っています。

あと人手不足ということに関連して言えば、これからは何か新しい人を外から取ってくるというよりも、今働いている人たちを本当に大切に、その人たちが自分たちも成長している、そして自分たちが生きる上でもプラスになるというようなことを実感できる、そういうような職場になっていくということが非常に重要なのではないかなと思っています。市民との協働から学んでいくようなことも含まれると思います。そんなことを感じております。

今言ったような視点で今日は4つの図書館のお話がありましたけれども、それ以外の図書館でうちは参加型という意味で言えば、こういうことをやっているよみたいなお話を聞けるとありがたいなというふうにも思っています。

那珂会長 参加型の活動されている図書館があれば、この場でご紹介いただければと思います。

事務局（薬科図書館長） 薬科図書館から参加型のイベントをひとつご紹介させていただきます。薬科図書館はリニューアルオープンの記念として、ナイトライブラリーという図書館に泊まるイベントを行いました。

図書館に一晩泊まって好きなように読書を楽しんでくださいという趣旨のイベントで、大変好評だったため、今年度は春に家族連れを対象に行い、来月11月は大人の方を対象に行います。最初はその図書館に泊まるという特別な体験を通して、図書館への愛を持っていただくことが目的だったのですけれども、せっかく同じ空間に集まって一晩過ごすのにそこで何かできることはないかなという話になってきています。

春にやったお子さん連れの家族、グループを対象にしたときには、そこでお子さん同士が仲良くなって、また会おうねみたいに別れていったのを見たものですから、今度の大人のナイトライブラリーでは読書好きの大人同士で出会いがあるといいなと考えています。

また、薬科図書館は高齢の方の利用が多い地域で、開館してから30年以上経って、開館当初、ヘビーユーザーでいらした方もだんだん図書館に来るのが大変になってきたという話も聞きます。今年からは地域に出ていくということをテーマに、地域のデイサービスに行っておはなし会や一緒に切り紙などの工作をしたり、複合施設である生涯学習センターでボランティアさんを養成して地域の高齢者にスマホの使い方を教えるサロンを開いているので、そのボランティアさんに図書館のウェブサイトの使い方を学んでもらってサロンで紹介してもらったりしています。

那珂会長 本来であれば全員からご意見をお聞きしたいところですが、時間もだいぶ押して来ておりますので、最後におひとりだけ、よろしいですか。はいどうぞ。

勝山委員 冒頭那珂先生から、学びの連続性の中核としての図書館、そして今後の図書館は対話と交流そして参加型ということを豊田委員からお話いただいたと思いますが、まずそのときに子どもたちにとって一番身近な図書館というと、やはり学校図書館だと思います。「このゆびとまれ」という会報誌を配布させていただきましたが、その10ページに書いてあるんですけども、市立図書館では、「教科を強化する3冊セット」、あるいは初任者研修や学校支援の図書ツアーや講座ということで、非常に学校図書館への支援をやっ

てくださっているというところは、まず感謝を申し上げたいと思います。

その中でやはり小学校の学校図書館はかなり活発にいろいろな支援が、では中学、高校はどうだということですね。特に高校の学校の司書率というのは非常に低い。これはこどもの読書離れの傾向と比例してくるのかということの中で、先ほどの那珂先生からの数値化のお話をいただいた。子どもと読書に関わっておりますと、今も県で第4次の読書推進計画の改定を行っていますが、どうしても何冊読んだとか、家ではどのような本を何冊読んだとか、いわゆる冊数ですね。そういうところにどうしても目が向いてしまうんですけども、我々こどもの読書に関わっている者からすると、何冊読んだのかということよりも、何を読んだのかということに重きを置きたいなということの中で、この参加型ということの中で、どのように市民が関わっていったらいいのかという何かちょっとヒントもあるのではないかなと思います。

その中で先ほどご紹介いただいた清水の図書館のお父さん対象の読み聞かせは、同じ子どもでも、女の子よりも男の子の学齢が上がるにつれての読書離れがちょっと深刻な状況になっているという中で、母親ではなくて、父親と一緒に図書館に来るというのは非常にいいイベントだなというふうに感じました。

このことについては、東京子ども図書館の機関誌「子ども図書館」に、渡辺茂男さんのご子息の渡辺鉄太さんが「へなそうの森から」という一文を寄せていますが、その中で、子どもを本好きにしたいければ、特に男の子はお父さんと一緒に図書館に来る、これが何よりだということを書いていらっしゃるんですね。ぜひこれをご一読いただければと思います。

先ほど人手不足社会ということで豊田委員からお話がありましたが、これから図書館に一番お願いしたいのは司書へのリスペクトです。外国に行くと、医者とか弁護士並みに、司書というのは非常に尊敬の対象です。考えてみると、医者とか弁護士は、人生のマイナスをプラスにゼロに戻す仕事なんですね。ところが司書は、0を1とか2とか3とかプラスに持っていける。それが、先ほど那珂先生のおっしゃった、生涯学習の連続性に繋がる。

ですから、その辺りも含めて、現場の司書の人を大事にする図書館をぜひお願いしたいと感じました。すみません、質問ではなく感想です。

那珂会長 では、予定時刻が11時25分までということになっておりますので、本日は伝えきれなかったという方もいらっしゃると思いますけれども、また個別にご意見を図書館の方に出していただければと思います。

本日は具体的な審議ではありませんでしたが、長時間に渡ってお付き合いいただきまして、誠にありがとうございました。今日何人かの委員の方から出ました意見、特に人を中心とする図書館というところが、これからますます求められていくのかなあと感じますので、ハードの面だけではなく、ソフトの面、そういったところを我々も意識しながら、今後の静岡市立図書館の図書館サービス運営いろんな面で、我々で何かできることがあれば、様々な意見、助言等々を行ってまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。では、本日はこちらで閉じさせていただきたいと思います。

7 閉会